

第1回冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 議事録

日時： 平成28年6月8日（水）10:00～11:30

場所： STV北2条ビル地下1階AB会議室

出席者：

○委員

伊藤 義郎	委員	(公財)北海道・札幌スキー連盟	会長
畠山 五郎	委員	(一財)北海道スケート連盟	
新保 實	委員	札幌スケート連盟	
村上 一元	委員代理	(一財)北海道アイスホッケー連盟	副会長
霜觸 寛	委員	(一財)札幌アイスホッケー連盟	
城田 仁	委員代理	北海道・札幌ボブスレー・スケルトン連盟	理事長
前田 直樹	委員代理	北海道・札幌リュージュ連盟	常任理事
貝森 輝幸	委員	北海道カーリング協会	
湯浅 哲彦	委員	(一社)札幌カーリング協会	
伊部 廣明	委員	北海道バイアスロン連盟	会長
浅香 博文	委員	(一社)札幌市障がい者スポーツ協会	会長

○関係自治体

長谷川 浩幸	北海道環境生活部文化・スポーツ局スポーツ振興課長
敦賀 光裕	帯広市教育委員会生涯学習部スポーツ振興室長
松澤 一郎	ニセコ町教育委員会町民学習課スポーツ係長

○事務局職員

町田 隆敏	札幌市副市長
石川 敏也	札幌市スポーツ局長
梅田 岳	札幌市スポーツ局招致推進部長
里 忠克	札幌市スポーツ局招致推進部調整課長
久米田 真人	札幌市スポーツ局招致推進部計画担当課長

欠席者：

石橋 弘次	委員	(一財)北海道アイスホッケー連盟	会長代行
石川 裕一	委員	北海道ボブスレー・スケルトン連盟	会長
五十嵐 徳美	委員	札幌ボブスレー・スケルトン連盟	会長
出口 弘之	委員	札幌バイアスロン連盟	会長代行

次第：

1 開 会

2 町田副市長挨拶

3 議 事

- (1) 会長及び副会長選出
- (2) 設置要領（案）について
- (3) 平成 28 年度事業計画（案）について
- (4) 冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）について
- (5) 意見交換

札幌招致を成功させるための提案・アドバイス

- ① 国際競技団体等への働きかけについて
- ② アスリートを活用した招致気運の醸成について
- ③ 国際大会等の招致について

4 閉 会

《配布資料》

資料 1 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 設置要領（案）

資料 2 冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議 平成 28 年度事業計画（案）

資料 3 冬季オリンピック・パラリンピック招致に関する想定スケジュール（平成 28 年度）

資料 4 冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）【概要版】

資料 5 冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画（案）【本書】

資料 6 札幌に冬季オリンピック・パラリンピックを【パンフレット】

発言者	発言要旨
1 開 会	
事務局	<p>開始時間となったので、ただ今から第1回冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議を開催する。</p> <p>会長選出までの間、私、札幌市スポーツ局長の石川が進行させていただきます。</p>
2 町田副市長挨拶	
事務局	<p>はじめに、札幌市を代表して町田副市長よりご挨拶申し上げます。</p>
町田副市長	<p>第1回冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議の開催にあたり一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>大変お忙しい中ご出席いただいたこと、また、本連絡会議の趣旨にご理解、ご賛同いただいたことに感謝申し上げます。</p> <p>ご存知のとおり、札幌市は平成26年11月に2026年冬季札幌オリンピック・パラリンピック招致を表明し、競技団体の皆様から意見をいただきながら「開催概要計画（案）」の作成を進めていたが、先日、計画案をとりまとめ、議会や有識者会議における報告を行った。</p> <p>今後、予定している日本オリンピック委員会（JOC）への提出に向けて、市民・道民の意見を取り入れながら、招致気運を高める活動を進める予定であるが、現在、こうした活動を進められるのは、競技団体の皆様のご理解、ご協力の賜物である。</p> <p>特に北海道・札幌スキー連盟の伊藤会長の多大なる尽力により、今年2月に国際スキー連盟（FIS）のロシアアルペン委員長らによる視察が実現し、ニセコでのアルペン競技開催の可能性が認められ、開催概要計画（案）にも反映している。</p> <p>また、他の競技団体においても、来年2月に開催される冬季アジア札幌大会をはじめ、様々な大会の開催や冬季スポーツの振興に協力、支援をいただいていることを、改めて感謝申し上げます。</p> <p>今後、札幌市が招致活動を進めていくには、国際大会等を誘致し、開催実績を積み上げていくことが必要となり、競技団体の皆様には引き続き協力していただきたい。</p> <p>本日第1回目を迎えるこの冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議が、我々と競技団体の皆様との連携をよりいっそう深めるものとなるよう、引き続き協力をお願いしたい。</p>

委員、関係自治体の紹介	
事務局	<p>続いて委員の皆様をご紹介します。</p> <p>(委員を資料 1 別表「冬季オリンピック・パラリンピック競技団体連絡会議委員名簿」に沿って紹介)</p> <p>また、本日出席の関係自治体の皆様を紹介する。関係自治体の皆様は紹介後に一言ずつ挨拶をお願いしたい。</p>
長谷川課長	<p>(北海道環境生活部文化・スポーツ局 長谷川スポーツ振興課長を紹介)</p> <p>札幌市がオリンピック・パラリンピック招致を表明して以来、様々な機会連携を図っており、今後も将来を見据え、オール北海道で招致実現を目指していきたい。</p>
敦賀室長	<p>(帯広市教育委員会生涯学習部 敦賀スポーツ振興室長を紹介)</p> <p>開催概要計画(案)ではスピードスケートの競技会場として帯広と真駒内の 2 案が掲載されている。帯広市としては来年 2 月の冬季アジア札幌大会を成功させ、北海道全体の冬季スポーツを盛り上げていきたい。</p>
松澤係長	<p>(ニセコ町教育委員会町民学習課 松澤スポーツ係長を紹介)</p> <p>アルペン競技の会場として、札幌市や各関係機関と連携して積極的に取り組んでいきたい。</p>
3 議 事	
(1) 会長及び副会長の選出	
事務局	<p>本会議では、委員の互選により、会長及び副会長を選ぶこととしている。</p> <p>どなたかご推薦のある方は、挙手の上ご発言をお願いします。</p>
霜觸委員	事務局に案があればご推薦いただきたい。
事務局	霜觸委員より事務局による推薦の提案があった。事務局として会長に北海道・札幌スキー連盟の伊藤委員、副会長に北海道スケート連盟の畠山委員と北海道アイスホッケー連盟の石橋委員をお願いしたいと考えているが、いかがか。
各委員	異議なし。

事務局	<p>それでは伊藤委員に会長、畠山委員と石橋委員に副会長をお引き受けいただきたい。</p> <p>伊藤委員と畠山委員、石橋委員の代理で参加している村上様におかれましては、会長、副会長席にお移りいただきたい。</p> <p>(各委員が会長、副会長席に移動)</p>
事務局	<p>それでは、伊藤会長から皆様にご挨拶をお願いしたい。</p>
伊藤会長	<p>当会議を代表して挨拶を申し上げる。</p> <p>オリンピックは世界的な競技大会であり、競技団体は実施部隊であるため、IF（国際競技連盟）と密に連携を取りながら、その責務を果たさなければいけない。メダルを争い、世界が注目する大会であるため、選手の育成も大事である。</p> <p>2026年招致を目指すライバルはいると思うが、北海道全体で関心度を高めるために活動しなければ行けない。</p> <p>1972年は大成功し、札幌が世界中に認知されるきっかけとなった。ローマのIOC総会で「札幌」と発表された時の感激や当時の経験を2026年招致にどのように活かすことができるか。選手の育成、盛り上がりなど招致に向けたアドバイスをしていきたい。</p> <p>IFによる競技施設の認定が必要となるので、全日本連盟と協力していきたい。</p> <p>このような役をいただいて感激している。本日は競技団体の皆様が一堂に会したことに安心しており、お互いに助け合いながら立候補に向けた招致活動を正々堂々と進めていきたい。</p> <p>副会長にもご挨拶をお願いしたい。</p>
畠山副会長	<p>伊藤会長の意思を受け取り、副会長を勤めさせていただく。</p> <p>競技団体が力を合わせ、まずは来年2月の冬季アジア札幌大会を成功させることが重要であり、第1ステップとなる。北海道スケート連盟としても、道内の様々な団体と一丸となって協力していきたい。</p>
村上委員代理	<p>オリンピックは2度経験しているが、運営のみであり、招致は初めてである。アイスホッケー連盟も一丸となり、協力していきたい。</p>

<p>(2) 設置要領(案)について</p> <p>(3) 平成28年度事業計画(案)について</p>	
伊藤会長	設置要領(案)と平成28年度事業計画(案)について、事務局からの説明をお願いします。
事務局	(事務局から資料1～2について説明)
伊藤会長	事務局から説明のあった内容について、ご意見やご質問はあるか。 (質問や意見なし) それでは、原案どおり承認としてよろしいか。
各委員	異議なし。
伊藤会長	それでは、設置要領と平成28年度事業計画について承認とする。
<p>(4) 冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画(案)について</p>	
伊藤会長	続いて、冬季オリンピック・パラリンピック開催概要計画(案)について事務局より説明をお願いします。
事務局	(事務局より資料3～6について説明)
伊藤会長	事務局から説明のあった内容について、ご意見やご質問はあるか。 (質問や意見なし)
<p>(5) 意見交換</p> <p>札幌招致を成功させるための提案・アドバイス</p> <p>① 国際競技団体等への働きかけについて</p> <p>② アスリートを活用した招致気運の醸成について</p> <p>③ 国際大会等の招致について</p>	
伊藤会長	続いて、意見交換として、冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致の実現に向けた提案やアドバイスについて、順番にご発言いただきたい。 (畠山副会長、村上委員代理は発言なし)
新保委員	今日は概要ということなので、詳細は今後協議していきたい。私も1972年札幌オリンピックも経験しているので、アドバイスしていきたい。

霜觸委員	<p>開催概要計画（案）で「アスリートファーストの視点で」というコンセプトが掲げられており、競技施設や生活環境などについて、アスリートから意見、アドバイスをもらう部会の設置を提案する。特に初となるパラリンピックには必要となるのではないかと。</p>
城田委員代理	<p>夏場でも練習可能な施設を建設し、日本国内の選手はもちろんアジアの選手の合宿招致を目指してほしい。その施設がナショナルトレセンの指定を受ければ、科学的な研究による選手の成績向上が期待されるため、ぜひお願いしたい。</p>
前田委員代理	<p>ドイツにある国際リュージュ連盟のフェント会長は日本のリュージュに理解があり、当連盟からの働きかけが可能である。</p>
貝森委員	<p>まずは冬季アジア札幌大会を成功させるために尽力していき、招致活動の参考としたい。</p> <p>また、選手強化のためにナショナルトレセンを誘致してほしい。</p>
湯浅委員	<p>選手が活躍し、競技の楽しさを伝えることが招致気運の醸成につながる。ウィンタースポーツ都市「さっぽろ」として選手にとって良い環境を整えてほしい。</p>
伊部委員	<p>西岡バイアスロン競技場では冬季アジア札幌大会の後に、バイアスロンとクロスカントリーのパラリンピックワールドカップが開催される。1972年札幌オリンピック時には射場が24個、現在は冬季アジア札幌大会に向けて26個となっているが、2026年オリンピック開催となると30個は必要となる。</p> <p>現在、ナショナルトレセンの指定も受けている冬季戦技教育隊が改編し、自衛隊体育学校の傘下となることでナショナルチームの合宿を実施することが可能となったため、選手の意識も変わってきている。招致に協力できる体制が整い始めている。</p>
浅香委員	<p>多くの観客を集めることができる国際大会などを招致し、競技を生で見る機会を増やすべきである。</p> <p>パラリンピック競技については、アイススレッジホッケーと聞いてもその競技内容を理解できる人は少ないため、国内大会の開催や冬季アジア札幌大会におけるデモなど、周知できる機会を増やしたい。</p>

	<p>平昌オリンピックの事前合宿を札幌、北海道へ積極的に招致することが、2026年札幌オリンピック・パラリンピックの招致につながると思う。</p> <p>札幌市障がい者スポーツ協会は国際的な団体とのつながりはないため、他の競技団体のお力をお借りしたい。</p>
伊藤会長	<p>関係自治体からも意見を願います。</p>
長谷川課長	<p>伊藤会長の挨拶には2つのポイントがあった。</p> <p>1つは住民の関心度を高めること、招致気運の醸成である。2020年東京オリンピック開催による北海道への波及効果や冬季オリンピック・パラリンピック札幌招致について、「北海道オリパラの会」という官民連携組織を設置し、オール北海道として取り組んでいる。</p> <p>もう1つは選手の育成である。3年前からカーリング、バイアスロン、スケルトンの3競技について、小6～中2を対象とした「北海道タレントアスリート発掘育成事業」を各競技団体と連携して取り組んでいる。いずれはその子ども達が札幌冬季オリンピック・パラリンピック大会に出場できるように引き続き活動していきたい。</p>
伊藤会長	<p>札幌市を中心にオール北海道として招致活動に取り組んでおり、近年では広域開催も認められているが、帯広市の意見を願いたい。</p>
敦賀室長	<p>冬季アジア大会に向けて、事務レベルでの準備は進んでいるが、市民レベルでは札幌に比べて帯広の盛り上がりは少なく、2026年招致に関してもまだ関心が低いようである。</p> <p>先ほど話のあった事前合宿については、明治北海道十勝オーバルにヨーロッパなどから平昌オリンピックに向けた話が少しずつ来ている。現状でオリンピックの開催はできないが、事前合宿を行える競技場は道内各地にあるため、積極的に受け入れて、オリンピック招致につなげたい。</p>
伊藤会長	<p>最後にアルペン競技の会場であるニセコ町の意見を願いたい。</p>
松澤係長	<p>20年前まではニセコエリアでスキー大会が毎週開催されていたが、残念ながら現在は行われておらず、運営力や選手育成力が低くなっている。</p> <p>スキー場にはパウダースノーを求め、数多くの海外や国内のスキーヤーが訪れており、ここ数年では小学生の約6割がシーズン券を購入するなど、子供たちのスキー利用は増えている。</p>

<p>伊藤会長</p> <p>霜觸委員</p> <p>伊藤会長</p> <p>事務局</p> <p>伊藤会長</p>	<p>冬季オリンピック・パラリンピックが開催されると、大会への出場や応援、観戦の機会となる。ウィンタースポーツが身近に感じられるように活動を続けることで、いずれ選手が生まれてくるかもしれないので、同エリアの倶知安町やスキー連盟と連携していきたい。</p> <p>最後に、先ほど霜觸委員から提案があった件について、改めて説明をお願いしたい。</p> <p>オリンピックを経験しているアスリートから競技や運営、施設等についてのアドバイスをいただけるのではないかな。</p> <p>確かにアスリートとしての意見を聞くことは重要である。メンバーについては各競技団体からの意見もあると思うので、事務局で調整していただくということによろしいか。</p> <p>ご提案のあったアスリート部会については、先日開催された JOC 主催の「北海道オリンピック・パラリンピアン集い」の名簿を基に各競技団体の皆様から推薦していただき、相談しながらメンバーを決定したい。アスリート部会の設置に向けて事務手続きを進めてよろしいか。</p> <p>よろしくをお願いしたい。</p>
<p>4 閉 会</p>	
<p>事務局</p>	<p>今後、JOC へ提出する開催概要計画も大詰めの作業を進めていく。伊藤会長から話のあった 1972 年のレガシーやこれまでに各競技団体が築き上げてきた国際大会の実績を活かし、いただいた意見、アドバイスを踏まえ、世界で戦える計画を作り上げたい。</p> <p>また、提案のあったアスリート部会を設置しながら、市民・道民の認知度の高いアスリートに招致気運醸成イベントやシンポジウムへの出席などの協力をお願いしたい。</p> <p>これにて会議を終了とする。</p>